

平成 30 年 5 月 31 日

## 奈良三田会「飛鳥巡り」報告文

5 月 26 日（土）、奈良三田会の「飛鳥巡り」が開催されました。梅雨入りが近づき天候が懸念されましたが、当日は時折日差しがさす薄曇りの天気と飛鳥散策には絶好の日和となり、鶯や雲雀の美しい声がこだまする中、18 名の会員が古の都飛鳥の在りし姿に思いを馳せました。

今回訪れた場所は、①向原寺、②甘樫丘展望台、③飛鳥寺、④大伴夫人の墓、⑤鎌足の誕生地、⑥伝飛鳥板蓋宮（飛鳥宮跡）の 6 箇所、歴史的には推古天皇即位から大化の改新頃まで、飛鳥時代前半の史跡を見学しました。

私がつりわけ興味を持ったのは最初に訪問した向原寺です。甘樫丘麓の向原寺は推古天皇が即位された豊浦宮跡に建立された寺院と言われていますが、私の故郷である信濃国の善光寺縁起と深い縁があります。蘇我原住職から大変興味深いお話を頂戴しました。仏教伝来間もない頃、異国の宗教である仏教受容を巡って蘇我氏と物部氏の間で争いが起こり、物部尾輿は百濟聖明王から欽明天皇に献上され、蘇我稲目に授けられた仏像を豊浦宮近くの難波の堀江（難波池）に打ち捨てたが、信濃国の本田善光がこの仏像を池から救い出して信濃国に持ち帰って善光寺が創建されたことから、向原寺は元善光寺とも呼ばれているとのことです。善光寺のご本尊は現在絶対秘仏で、誰も目にすることはできませんが、ここ向原寺には蘇我・物部の争いの時代、難波池に打ち捨てられたと思われる小さな金銅仏・観音像が安置されており、その頭部は飛鳥時代の作であることが特定されたとのことです。なんと興味深い話でしょうか。

蘇我原住職とともに記念撮影をした後、近くの甘樫丘展望台で、大和三山を眺めながら皆で昼食を楽しみ、蘇我馬子建立の飛鳥寺に向かいました。飛鳥寺は日本で最初に建立された大寺で、五重塔の周りに三金堂を配する威容を誇っていましたが、長い歴史の流れの中で衰退し、今日では江戸時代に再建された本堂が残るのみとなっています。しかしその御本尊飛鳥大仏は飛鳥時代から今日まで一歩たりともこの場所から動かれることなく鎮座し、1400 年の日本歴史を正視し続けていらっしやいます。

その後、飛鳥寺から東方面へ 20-30 分散策し、飛鳥小原にある大伴夫人の墓と鎌足生誕の地に建てられた大原神社を訪れました。ちょっとした坂道を登り、良い運動になりました。ここから少し下ったところにある万葉文化会館近くの休憩所で一休みした後、最後の訪問地・飛鳥京跡を訪れ、奈良県庁にお勤めの松村謙一様（S. 62 経）から飛鳥京についての詳しい説明をお聞きしました。

素晴らしい「飛鳥巡り」に参加させていただきありがとうございました。幹事の平越真澄様（S. 47 文）には大変貴重な資料「飛鳥の歴史」を作成いただき深謝申し上げます。一般の旅行ガイドブックには記載されていない詳細な飛鳥の歴史が簡潔にまとめられており、今後飛鳥訪問の際には常に携行しようと思います。

武舎 一夫（S. 54 文）